




令和5年 **8**月の大阪森林便り

目次

8月の木の話 乾燥による木材の反り

- (1)  北米産木材 下げ拡大 7~9月 対日9%安
- (2)  熱帯雨林、2022年に消失面積10%増 ブラジルで伐採進む
- (3)  木造の魅力増す



8月の木の話 乾燥による木材の反り

- * 木材は乾燥によって含水率が低下し、これに伴って収縮します。
 - * 収縮率は方向によって異なります。
 - * 収縮率の違いで木材に反りが生じます。
 - * 木表側が凹に反った形となります。
 - * 柱目板では、このような反りはほとんど生じません。
 - * 板目板では、木表側の方が美しい木目となります。
- (木材利用システム研究会 木力検定委員会 木力検定 木を学ぶ100問より抜粋引用)

- (1)  北米産木材 下げ拡大 7~9月 対日9%安

減産継続、需給緩く

- * カナダ産は日本の木材輸入量の2割を占めます。
- * SPF (トウヒ・マツ・モミ類) は、ウッドショックに入ってからピークである2021年7~9月期と比べて半値以下に下落。
- * 米国の新築住宅着工数は足元で回復。
- * カナダのSPF生産量は、2023年1~3月期に前年同期比6.6%減少。
- * 日本の2023年5月の新設木材住宅着工戸数は前年同月比3%少なく、14カ月連続でマイナス。
- * 供給リスクが浮上。
- * 大規模な山火事。6月時点で焼失した面積は過去最大。
- * 港湾労働者のストライキ。
- * 等級が高い日本向け木材の調達に響き、10~12月の対日価格は上昇に転じる可能性。

(2023年7月5日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(2) 熱帯雨林、2022年消失面積10%増 ブラジルで伐採進む

- *世界の原生熱帯雨林の消失面積が、2022年に前年比10%増加。
- *全世界で木々が失われた面積の合計はスイスの国土に相当。
- *世界145か国が2021年、森林の減少を2030年までに食い止める宣言したのと裏腹な結果に。
- *ブラジル、コンゴ民主共和国やボリビアといった国で、農業関連の伐採などにより森林が著しく減少。

(2023年7月6日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(3) 木造の魅力増す 循環型経済に「木」を活用

- *樹木はCO₂を吸収し、酸素を排出して成長。
- *一度吸収したCO₂を炭素として樹木内に貯蔵し、木製品や住宅となった後も蓄え続けます。
- *伐採された森に植えられた苗木が、またCO₂を吸収して育つという森林サイクルが保たれ、地球温暖化の防止につながっていきます。

進む国産材の住宅利用

- *一戸建て住宅の9割は木造。
- *国産材の供給量は、高度経済成長期初期には約6000万M³に達し、自給率もほぼ100%。
- *2002年には1692万M³、自給率18.8%と最低値を記録。
- *2021年時点で約3372万M³、自給率41.1%まで上昇。
- *太い木は表面が炭化したあとは燃え進むのに時間がかかるので、短時間で強度が低下することはありません。
- くつろぎもたらず「和の住まい」
- *木の床は衝撃を吸収し、足腰への負担を軽減するほか、調湿効果によって室内の湿度を適度に保ってくれます。
- *畳やふすまなどの天然素材を使った木造住宅は、日本の気候風土にも適しており、暮らしの文化を守ることにもつながります。
- *政府では、国土交通省や農林水産省などの複数の関係省庁が連携して「和の住まいの推進」に取り組んでいます。

(2023年7月28日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

